

第14次 第3回 苫小牧市廃棄物減量等推進審議会

日 時：令和4年7月28日（木） 14時00分から14時45分

会 場：苫小牧市役所9階 議会大会議室

出席委員：栗山会長、平野副会長、阿部委員、緒方委員、川上委員、後藤委員、
佐藤（咲）委員、重本委員、堀江委員、松崎委員、嶺野委員（計11名）

会 議 録：

（事務局）

それでは、定刻となりましたので、ただいまから第14次第3回苫小牧市廃棄物減量等推進審議会を開催いたします。

皆様、本日は大変お忙しい中、ご出席をいただき誠にありがとうございます。私は、この4月の人事異動によりましてゼロごみ推進課長に着任いたしました安友と申します。よろしく願いいたします。

事務局では、他に2名の人事異動がございました。簡単にご紹介させていただきます。

<事務局の紹介>

（事務局）

また、委員の退任に伴いまして改選がございますので、ご紹介いたします。

苫小牧市老人クラブ連合会様ご推薦の山川 静子 様のご退任され、新たに重本 清 様が委員とされました。委嘱状の交付は事前に済ませておりますが、新任委員の重本様から一言、自己紹介をお願いいたします。

<委員の自己紹介>

（事務局）

ありがとうございました。

本日、委員17名中11名の委員にご出席いただいております。苫小牧市廃棄物の処理及び清掃に関する条例及び同施行規則に定める開催要件を満たしておりますので、開催させていただきます。

なお、榎本委員、遠藤委員、佐藤委員、鈴木委員、細部委員、今野委員につきましては、本日は所用により欠席とのご連絡をいただいております。

それでは、規則に従いまして、会議の進行を会長にお願いすることといたします。

会長、よろしく願いいたします。

(会長)

皆様、お疲れのところお集まりいただきまして、ありがとうございます。

それでは、次第に従いまして審議会を進めさせていただきます。

本日の審議会は、おおむね1時間程度と考えておりますので、議事進行へのご協力のほどよろしくお願いいたします。

本日の内容につきましては、報告が2件、ごみ量とリサイクル率の推移並びに市内のごみステーションの設置状況についてでございます。

議題が1件、ボランティア清掃用ごみ袋の容量及び種類でございます。

本報告事項に対する質問等は、2件の報告が終わった後にまとめてお受けしたいと存じます。

また、議題につきましては、今のボランティア清掃用ごみ袋の問題ですが、その議題につきましては、事務局からの説明の後にお一人ずつ順次ご意見を賜りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、報告事項(1)ごみ量とリサイクル率の推移について並びに報告事項(2)市内のごみステーションについて、事務局から一括して説明をお願いいたします。

(事務局)

<報告事項(1) ごみ量とリサイクル率の推移について説明> (資料1)

<報告事項(2) 市内のごみステーションの設置状況について説明と実演> (資料2)

(会長)

どうもありがとうございました。

ただいまのご報告について、質問ございませんか。

どうぞ。

(A委員)

教えてほしいのですが、新開町はポリタンクをごみ箱代わりにしています。1軒1軒ポリタンクにごみを入れていますが、結構飛ばされることがあります。それを何とかして欲しいと思っています。

(会長)

事務局より回答どうぞ。

(事務局)

今、質問いただいたのは、新開町ですので、戸別収集のモデル地区の地域でございます。戸別収集のモデル地区につきましては、戸別収集の開始当初、市からグレーのバケツを各世帯に配付し、それぞれが飛ばないように工夫してもらうことをお願いしています。

例えば、バケツの中に重石や水の入ったペットボトルを重石代わりにする等で対策し、個々で管理していただくということです。市にバケツが飛ばされる等の個々の問合せがあった場合は、必ず個人で飛ばないように管理してくださいということを伝えておりますので、引き続き周知はしていきたいと思っております。

(会長)

よろしいでしょうか。

(A委員)

はい。

(会長)

他にどなたがございますか。よろしいでしょうか。

それでは、続きまして、次の議題に参りたいと存じます。

続きまして、議題のボランティア清掃用ごみ袋の容量及び種類につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

(事務局)

<議題事項 ボランティア清掃用ごみ袋の容量及び種類について説明> (資料3)

(会長)

ありがとうございました。

それでは、ボランティア清掃用ごみ袋の容量及び種類につきましては、第2回審議会でも委員の皆様から様々なご意見をいただいております。

また、ただいまの事務局からの説明で、仮に10ℓの袋を作った場合の費用面やCO₂についてもご説明をいただきました。

そこで、委員の皆様には、改めてこの小さいサイズのボランティア清掃用ごみ袋が必要であるか、ご意見やご提案を伺いたいと思います。どのようなことでも結構ですので、よろしく願いいたします。

それでは、B委員のほうから時計回りで1人ずつお願いします。

(B委員)

地域や人によって早く拾う人、ゆっくり拾う人がいる。そうすると、どうしても大きいごみ袋だけでは、多く拾えない人が袋を満杯にするために拾わなきゃいけないと感じるということもあるから、そういう人には小さい袋を渡したほうがいいのかなどということで提案してみました。

(会長)

今回の意見について、事務局からの説明の観点からご意見いただけますでしょうか。要するに費用面からと自分はどちらがいいかというような考えを教えていただきたいと思います。

今、B委員からは、早く拾う人は多く拾うだろうし、ゆっくりの人は少なく拾うので、2種類あったほうがいいのかということによろしいですか。

(B委員)

はい。

(会長)

ありがとうございます。

それでは、次に、C委員。

(C委員)

私は、資料2の費用面やCO₂排出量を見て、すごい違いがあることにびっくりしました。この結果なら2種類も作らなくてもいいと思っていましたが、他の方の意見で、各自がサミット袋にごみを入れて、集積所で集約してはどうかというのを聞いて、なるほどと思いました。それなら、自分の拾える量のサミット袋を家から持ってきて拾えばいい。植苗の中でもごみ拾いを何回もしていますが、30ℓの袋は確かに満杯になりません。多く集まらないので、みんなが集めたごみ一つの袋の入れるというのはすごくいいアイデアだと思いました。

(会長)

ありがとうございます。各自がそれぞれ小さい袋を持ち寄って、それを公共からもらうごみ袋にまとめてはどうかというようなご意見だと思います。ありがとうございます。

続きまして、D委員、よろしく願いいたします。

(D委員)

私は、初めは2種類で良いと思っていましたが、町内会のごみ拾いや春と秋の2回参加していますと、やはり30ℓだと、満杯の袋はほとんどないです。本当にもったいないなど

感じてます。ごみも以前から比べると、町内会のごみ拾いの量は減ってきているので、袋の種類を100袋1つにして、100のごみ袋のみにするのがよろしいではないかと思っております。

(会長)

今のご意見は、100の袋が1種類だけでいいのではないかというようなご意見でよろしいでしょうか。300のように大きい袋ではなく、100を1種類だけ作る。袋として配布するのは1種類でいいよということですか。

(D委員)

そうです。

(会長)

300の袋は要らないと。要するに100のみでいいよというご意見ですね。分かりました。ありがとうございます。

では、次にE委員、お願いいたします。

(E委員)

学校でも、子供たちが校区内や学校の周りのごみ拾い、グラウンドの石拾いなどを行うこともあります。確かに袋がたくさんあってももったいないということで、学校にある石拾い用の古いバケツを活用しています。古いバケツにまとめたごみを大きなごみ袋一枚に集めて廃棄することで、少しでもごみ袋の使用量の節約を考えておりますが、市内の小学校ではそのような工夫をされてると思います。

サミット袋に入れたほうがいいのではないかという意見も、町内会のボランティアの清掃用のごみ袋をどうするかという観点からすると、サミット袋に限らず、何か別なものに集めて大きな袋に最後まとめるという方法が一番無駄がなくてよろしいのではないかと、これまでの話を聞いて、そう思います。

(会長)

ありがとうございます。E委員の話では、300の袋1種類のみを使ってみんなで集めるというやり方でいいのではないかということでもよろしいですか。

ありがとうございます。

続きまして、F委員、お願いいたします。

(F委員)

当初は小さい袋も製造してもらったほうがいいのではないかと考えていましたが、説明

を受けまして、思ったよりコストが300の袋と100の袋でだいぶ違っていたので、自分の中でも考えてみると、個人でサミット袋を持ち寄り、ごみ拾いして300の袋に集めるという形式であればいいのかなと思いました。

(会長)

ありがとうございます。F委員からは、先ほどの皆様の意見と同じように、大きい300の袋1種類で良いということだと思います。

では、A委員、お願いいたします。

(A委員)

私も町内のボランティアでごみ拾いをしていますが、実際考えたら大きい袋は少し無駄だと思います。それで、D委員から意見出ましたように、100の袋を作って、持ち寄って集約して大きい袋に入れるという形が良いと思います。

(会長)

ありがとうございます。小さい袋を用意して、それを何らかの形で大きい袋にまとめるということですね。ただ、大きい袋は行政でもう1種類用意しなければいけないということになると思いますが、ご意見、ありがとうございました。

次、G委員、お願いします。

(G委員)

やはり、複数作るとなるとコスト等で不利ということがデータで示されましたので、今色々な委員が述べられたように、小さな袋を自分たちで用意して、最後、大きな袋に集約するというのが良いのではないかというふうに感じております。

(会長)

ありがとうございました。他のご意見と同じように、小さい袋を持ち寄って大きな袋にまとめるという意見かと思います。ありがとうございました。

次、H委員、お願いいたします。

(H委員)

もう一回、原点に戻りたいなと思いご質問させていただきますが、そもそもボランティア清掃は何のためにやるのかという目的が僕は少し分かりません。コストの話なのか、ボランティアでごみの意識を向上させたいのかが見えないです。ボランティアですから多くの人に参加していただいて、特にお子様やごみの意識を持って将来につなげるというのが本質の筋かなと私は思っていたのですが、ここに来てコストの話が多く、何を議論したいの

かというのが一点。

もう一点として手前どもも産業廃棄物を処理していますので、ごみのコストは当然考えなきゃならない。ただ、年4回、臨海地区のボランティアをやっていますが、300の袋を大人が持つと実は結構な重さになります。まして子供は無理だと思います。臨海地区のみ集めている他の企業さんのごみを見ますと、少量のごみ袋を丸めて、それをさらにごみ袋に入れるというのも実は散見しています。我々は全部入れ替えて瓶類とか缶類とか会社の中で入れ替えて分別して出しますが、結構手間がかかります。ただ、生業がそうだからやってるのですが。

もう一点見えないのは、僕は300なのか、100なのかよりも、どこの年齢層まで巻き込むかということも重要なところで、なおかつここで1個も見えないのが、年間何枚の300の袋を供給して何キロ回収してるのか、枚数当たり何グラム入ってるのか。本当であれば、例えば廃プラですと0.35の計算だったら、結構入ります。3キロから5キロぐらいは。瓶だったら入りません。その論点がなく、本当に300の袋が有効に使われているのか、この指標では見えないですよ。

例えば、100だったら確かに小さくて、僕は家庭用では100程度を使っていますが、お子さんだったら300は難しいでしょう。では、200程度にしたらどうなのかとか、現在は1袋当たり何キロぐらい入ってるからどういう有効性の袋があれば良いのかを論点に入れたほうが、皆さんがもっと話しやすいのかなと思ってました。

(会長)

貴重なご意見を色々ありがとうございます。最後にまとめて事務局からまた説明をいただきたいと思います。

次に、I委員、お願いいたします。

(I委員)

私は、実際に町内会で毎週ごみ拾いしています。確かに300いっぱいに入ることはないですが、それぞれ持ち寄ったものや用意してもらったものでそれぞれが拾って、最後にまとめて出しているのです、それでいいかなと思っています。コスト面でも、やはり300のほうが安いということもありますが、コスト面とCO₂排出量って考えた時に、100をあえて作るメリットがそんなにあるかなということをしごく感じたところです。ただいまのお話を聞きまして、300がいいのか、100がいいのかというだけの議論ではないのかなというふうにも感じました。

(会長)

どうもありがとうございました。小さい袋に集めて大きなものにしていくということでしたが、議論としては、どちらがいいのかということになるというご意見だったかと思

ます。もう少し議論を煮詰めたほうがいいのかと思いました。

次、J委員、お願いいたします。

(J委員)

私も第2回の時の意見としては、主婦としてもったいないと思いましたので、何か小さい袋もあってもいいかなという意見を出しましたが、改めて考えてみると、やはり製造コストやCO₂のこと、それから地域ごとのごみの量やごみの種類が違うのかその辺もよく分からないので、30ℓにごみを入れた時に、分別をしてないから30ℓなのか、分別をするなら小さい袋が必要なのかということも問題になってくるのではないかとこののを少し思いまして。

あと、先ほどから個人で小さい袋に集めて、それを一つの袋にするという意見もありますが、苫小牧市がゼロカーボンを目指している中で、ゼロカーボンの観点から言うと、30ℓ1枚に小さい袋がたくさん集まったときの分で二酸化炭素が出ることを考えると、何か言っていることが矛盾するかなと疑問が逆に湧いてきました。結局どれがいいのかなと悩みますが、小さい袋でたくさん出すよりも、30ℓ1つのほうが単価も安いし、CO₂の量も考えるといいのかとか今ちょっと思ってきました。

(会長)

ありがとうございます。それぞれ小さいゴミ袋に入れる、その場合にCO₂の問題は出てくると。それで、別に持ち寄って大きい袋に入れたほうがいいのかというご意見だったかと思えます。概ね大きい袋1種類でいいのではないかとこのご意見かと思えます。

今までの委員の意見について、事務局のほうから何かありますか。先ほど意見のありましたどの大きさにしたほうがいいのか、どの年齢層を巻き込むとか。

事務局のほうからお願いします。

(事務局)

色々なご意見ありがとうございました。

皆様の色々なご意見をいただきまして、ボランティア袋というのは当初40ℓの大きさでした。40ℓの大きさから、色々なご意見いただいて、30ℓにしたところでございます。

ただ、30ℓにした時に、落ち葉が入らないという苦情がかなり寄せられました。

先ほどの話の中で、地域ごとにどんなごみがあるかというご質問がありました。例えば海岸地域や山間部ですと、ポイ捨てでも大きいものがありますので、春、秋の全市の清掃では、例えば植苗町や樽前町では、自転車はかなりありますし、小型のものよりは大型のものが意外とあるのかなと。もちろん、中心部に寄るほどそこまでポイ捨てる量は少ないですが、やはりそこには地域性があつたかなと考えております。

また、先ほどの議論の論点の話です。確かに、委員言うとおりの、今回の論点は何かとい

うところですが、今回のそもそもの論点としては、ボランティア袋のごみ袋を今まで300で作成してきたが、実際、容量をどうするかと。小さくしたほうがいいのか、2種類にしたほうがいいのかという論点で今までずっと話を進めておりましたので、もちろん委員からご指摘された大掃除の在り方や教育の問題というのは、今後の大きな課題だとは思っております。

少し話ずれて申し訳ないですが、昨年度この大掃除ということに当たりまして、例えば勇払小学校と勇払中学校、勇払の地元の企業様、団体様、交番・警察の方と私たちも入って、一緒に地域の大掃除をしました。また、ウトナイ小学校も同じように地域と警察と合同で不法投棄のパトロールを実施し、赤灯を回して道路を封鎖しました。その時は、自転車の不法投棄があり、実況見分をしていただいております。

今年度、課としては、大掃除を地域と一体になって実施するというテーマも持って、前年度と同じような取組をさせていただこうと思っております。

実は今週ですが、樽前地区で今回初めて樽前小と地域と皆さんが合同で大掃除をする予定となっておりますので、大掃除の在り方、子供への次世代教育、皆様との分別の仕方については、今後も、課としては、引き続き別な観点で検討したいと思っております。

ごみ袋の容量と種類については皆様から色々なご意見いただきましたので、この意見を受けてどうするかというところをもう少し議論させていただければと思っております。

(会長)

どうもありがとうございました。

この件につきましては、色々議論をいただきまして、利便性を考慮すると、小さい袋も大きい袋もごみの種類によっては何種類か必要なのかなというふうには思います。環境問題、環境教育についても多数の視点があり、また、対象物が変わることによって考え方が変わってきますので、一概に結論づけるというのは難しいかもしれないですが、当然、ボランティア袋は作らなければならないので、当面の間は今の規格をそのまま使用するというところで結論づけてもよろしいでしょうか。

よろしいですか。では、以上のような結論にさせていただきたいと思えます。

最後に、その他として何かあれば事務局からお願いいたします。

(事務局)

次回開催につきましてご説明いたします。

次回の審議会は、令和5年2月を予定しておりますが、新型コロナウイルス感染症などの状況によっては書面開催とさせていただく場合があります。また、委員の皆様にはご理解いただきますようお願いいたします。

また、審議が必要な場合には、別に招集させていただくこともございますので、その際にもどうぞよろしくお願いいたします。

(会長)

ありがとうございました。

それでは、本日の審議会、以上で終了いたします。

ご協力ありがとうございました。